

本学の教育・学修等への生成 AI（ChatGPT 等）活用について

学生みなさんへ

AI 技術の進化や普及により、社会のあり方に様々な影響が出てくることが予想されています。昨今においては、ChatGPT 等の生成 AI が注目を集め、情報収集やプログラミングといった場面などでは生成 AI を仕事でのツールとして活用し、生産性を高めている事例が紹介されています。今後 AI 技術の知識とスキルは皆さんの生きる力の一つとして身に付け、使いこなせることが求められるでしょう。

一方で、AI ツール等の持つマイナス面に対して十分な理解が無いまま、安易に利用することで思わぬリスクを招く危険性があることも留意する必要があります。

特にみなさんの学修活動においては、生成 AI 活用に関して以下の点に留意してください。

1. 自分で考える力を大切にしよう

大学での学びでは、必要な知識やスキルを身につけるとともに、自らの思考力や表現力を鍛え、課題解決に取り組める力を育てることが大切です。安易に生成 AI を利用し、自分が成長するための機会を自ら損なうことのないように注意してください。

2. レポート等の作成における注意点

レポート等の作成においては、生成 AI の回答をそのまま書き写してレポートとして提出することはできません。書籍やネット上の文章（ChatGPT 等を含む）をあたかも自身の言葉のように書き写した場合は、盗作や剽窃といった不正行為にあたります。また生成 AI が出力した情報の中には、著作権を有するものが含まれる場合があります。著作権侵害となる可能性があります。このようなことがないように注意してください。

なお、授業における生成 AI の利用方法や取り扱いについては、授業担当教員の指示に従ってください。

3. 事実や根拠の確認について

生成 AI の回答には誤った情報が含まれている可能性があります。みなさんがツールとして活用する生成 AI の内容が、事実であるか、根拠ある内容かなどを常に批判的に考える姿勢が必要となります。

4. 個人情報、機密情報の入力禁止について

生成 AI に入力された情報は AI の学習データとして利用される場合があります。そのため入力された個人情報や機密情報が、第三者への回答等に出力されるなど、外部に漏洩する恐れがあります。セキュリティ上のリスクを認識し、個人情報や機密情報は入力しないようにしてください。

今後も AI を取り巻く技術発展はすさまじい勢いで社会構造を変え、教育の場面でも大きな変化が予測されます。

生成 AI ツールは、私たちに改めて大学での自分自身の思考による主体的な教育活動や学修活動の本質的な意義を問うものだと考えています。その生成物をもってみなさんの活動成果とするものではないことを理解しておく必要があります。本学としては引き続き生成 AI ツールの活用について、検討を続けていきます。

2023年7月26日
大阪信愛学院大学
学長 岩澤 和子